

スタートしたばかりの、
サクイチナイトウォークの参加者たち。
(南日本新聞社 提供)



さくらじま便り

「桜島のみんなとつながる」を目指して

SAKURA
JIMA
DAYORI
第6号
2021年10月発行

発行・編集 / さくらじま地域おこし協力隊
Photo・Editor / Akane Masudome
Design / Yurina Yamashita

一緒に本誌を作ってください方を募集しております。専用ポスト(桜島の支所・ターミナル3階)や公式LINEで感想も大募集中です。

| お問い合わせ先・感想 |
TEL 099-245-2550(増留)
MAIL a.masudome@sakurajima.gr.jp



「さくらじま便り」
公式ライン

気まぐれ配信中!
お気軽にネタメッ
セージください!!

新登場
ゆるゆる1コママンガ

古里地区
アーティリスト・
イン・レジデンス

松原小学校
錦江湾横断遠泳
さくらじま便りへの
「お便り」コーナー

CONTENTS
「特集」イベント復活!
サクイチ
ナイトウォーク

ナイトウォーク

火山の島の 星空のもとで 語り、 挑み、 向き合う夜

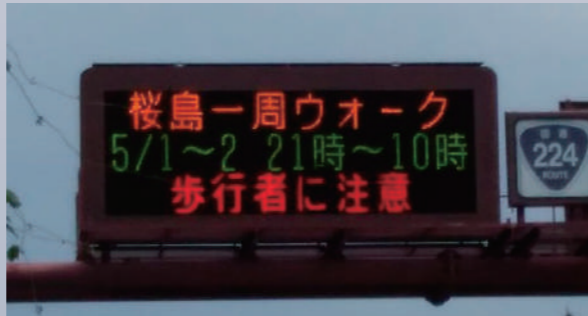
五月一日から二日かけて、島内を夜間一周歩行するイベントが、「サクイチナイトウォーク2022」と、名前を新たに実施されました。

口の地点にある公民館では、多くの参加者が腰をおろし、足を休めています。
そこから第二エックポイントまでは約九キロ。徐々に上り坂が始まり、先頭集団を率いるペースメーカー(先頭歩行者の速度調整、兼先導役)とそれに合わせて歩く参加者も、今回新たに設けた園山公民館の休憩ポイントに着く頃には、息も切れ気味。「皆さん一旦休憩しましょう」とペースメーカーの方の一言を発するにもなかなかの勇気がいりそうな緊張感が伝わってきました。それから、間を明けて少しずつそこを通過する人が増え、「次のポイントにはカップラーメンが待っていますよ」と伝えらる、多くの方が「よっしー!!」と気合を入れなおし、さらに続く坂道を登っていました。
今回参加者の皆さんに取ったアンケートで「印象に残った」としてあがったのが、第二エックポイントで提供される「カップラーメン」!!「これまで食べた中で一番おいしい!!」という声もあり、小さくも大きなナイトウォークの目玉なのかもしれません。
そうして、中間地点となる桜島口から第三エックポイントの有村岩展望所に向けて上り坂は続き、寒さも一段と増

イベント復活の経緯

「説によると一九七〇年頃に「夜間業軍」という名で始まったと云われている桜島の伝統行事は、二千年代に有志で復活し、多い時には県内外から、五百名以上が参加するイベントの一つとなっていました。惜しまれながらも二〇一九年を最後に終了しました。
そんな中、地域のある集まりの場で、「昔やっていたナイトウォークを復活させて、島を離れた子ども達に戻ってきて賑わうイベントがあるといい」という一人の住民の言葉がきっかけとなり復活に至りました。
この一年以上、制限された生活の中で、住民の方の率直な「声」の影響は大きく、その場に参加していた人々に思いもよらないきっかけをもたらしました。
そこから、さくらじま地域おこし協力隊の押川が中心となり、前回まで運営を行っていた「歩こう会」メンバーの方々や関係各所から助言をいただきながら、そして感染対策に対する協議も重ねながら、今回は短い時間の中で本イベントの実施にこぎ着けました。

夜明けの桜島



安全に努めるため、電光掲示板への掲載も行いました

し、参加者の口数もかなり減ってきている様子で、この辺りから第四エックポイントの砂防センター、そしてゴールまで、このナイトウォークの本当の戦いです。そんな中で、今回、自ら警備役として名乗り出てくださった、島内の青パトの皆さんが、一晩中、暗い夜道を青パト車で照らし、「大丈夫ね」と掛ける温かい一言に励まされ、また安心して歩くことができた、という多くの声がありました。
今回のゴール・桜島フェリーターミナルに一番手の方が到着したのが、深夜三時過ぎ、スタートしてから約六時間後のことでした。そこから徐々に皆さんの姿が見え、自分との戦いのよつに黙々と歩く方お

ナイトウォークレポート

当日は朝から雨風が強く、フェリーも強風で止まってしまっているのではないかと心配するほどの天気でしたが、夕方に近づくにつれ、それも落ち着き、夜は天候にも恵まれ、その時を迎えました。
復活した新生ナイトウォークイベントということで、今回は「桜島火の島太鼓」の演舞で、これから夜通しの歩行に挑む皆さんを鼓舞し、同時に



島内で受け継がれる伝統の一つに触れてもらう機会となりました。
今回は感染対策として、参加者は県内在住者のみとし、さらに約三〇〇名が三つのグループに分かれ、それぞれ太鼓の合図に併せてスタート。運営スタッフが手に持つライトを振りながら「がんばって!!」「いってらっしゃい!!」、と温かく送り出し、同時に新たな試みとして実施したオンラインラジオでも、その様子は伝えられました。
今回は感染対策の面から、

桜島総合体育館を受付会場、多目的広場をスタートとし、そこから袴腰を西回りに歩行開始!!小池町の旧道から長谷港一体では、対岸の市街地の夜景と海の波音を楽しみながら島民が知る、この地での贅沢な景色を堪能していたことでしょう。そうして、第一エックポイントの白浜公民館に着く頃には、先頭から最後尾の間は大きく開き、歩き始めて約九キ



事前準備では大量の道具類が並びました



地域の方々が整備して使えるようにしてくださった園山公民館の休憩所でお腹をおろしてゆっくり一息



地域の人と行った、事前の草刈り



蛍光バンドもボランティアさんの力も借りて消毒!

夜の深まりの中で、空を見上げれば月も星も一段と美しい夜、火山の島で参加者の皆さんはどんな時間を過ごされたのでしょうか。復活したこのナイトウォークが、さくらじまを盛り上げる、一つの名物イベントになることを願って今回の開催を楽しみにしたいと思います。



※写真の一部は南日本新聞社さん、ボランティアさんよりご提供いただきました。

サクイチナイトウォーク

参加してみた感想

約300名の参加者の一部のお声!!



カップラーメンも良かったのですが、焼餅とか豚汁とかおにぎりがあればなお最高でした。参加費をもっと取ってもいいかも。

どのチェックポイントでも、夜通し見守ってくださりありがたい限りでした。コロナ禍で人と集う機会が失われる中で、暖かいおもてなしと声掛け、距離を取りつつ参加者がみんな温かいカップ麺をいただいたのが、最高に嬉しかったです。

とても良い企画でした。波の音をききながら、星と月あかりで歩くなんて…。とても楽しかったです。ありがとうございました。来年も是非開催してください!

参加できて良かったです。途中、疲れた息子と親子げんかをしながら歩いたり、他の参加者の方に声をかけていただいたり、楽しい時間でした。ありがとうございました。



手厚いサポートして下さり、安心して真夜中のウォーキングを楽しむ事が出来ました。コロナ禍で大変な時ではありましたが、対策等もしっかりされており安心して参加出来ました。また来年絶対に参加したい!と思わせてくれるイベントでした。ありがとうございました。

桜島火の島太鼓の演奏セレモニーは、めったに見れないので、嬉しいセレモニーでした。太鼓のチカラ強い演奏は元気をもらえます。

桜島一周を1度してみたかったので、達成できて嬉しかったです。夜のピクニックができました、ありがとうございました。



道中、普段話さないような悩みなど語り合いました。あの雰囲気のおかげでしょうか? より仲間との関係が深まった感じがです。

楽しいイベントだと思いますので、しょっちゅうやったほうが良いかと。また参加したいです

一緒に参加したメンバーと一緒にゴールできて、絆が深まったと感じることができた。最後のストレートが非常にキツク感じたが、達成感を感じることができた。お味噌汁がとても身に沁みた…。

キツかったけど思い出になるウォーキングでした。ありがとうございます。

星空を見ながら桜島を一周するイベント「サクイチナイトウォーク」を終えての感想

サクイチナイトウォーク実行委員会
さくらじま地域おこし協力隊 押川蓮斗



島民も不思議がる、夜間に桜島一周を歩く引力

私が鹿児島へのUターンを決めたのも、桜島の引力によるものだと今となれば思います。「都市とは対照的な世界が、鹿児島にはある!」と魅了されて移住した桜島ですが、桜島を歩いて一周、それも夜に行うイベントがあると知ったのは桜島へ移住して地域の会議に参加させてもらった時のことでした。その時は、桜島を夜に歩いて一周するなんて、どんな人が参加するのだろうか?と、疑問でした。聞くこと、地域の住民も「不思議と長年続く伝統行事であるのね!」とリピーターまで存在することに、驚きが隠せなかったことを覚えています。そんな私ですが、桜島での伝統行事を今年初めて体験・運営して気づいた、その「引力」についてお話ししたいと思います。

まず一つ目は、「自然の中で過ごす夜」という特別な体験です。人と自然が共存する桜島の夜は、歩く、大自然が参加者を包み込んでくれる感じがします。

み込み、現代ではそういった機会がどこか希望の光のように感じることが出来ます。さらに、満点の星空が添えられたフルコースとくれば、より一層特別な体験となります。

二つ目は、約三十六キロメートルという距離の冥利です。誰でも参加できるイベントですが、誰でも達成出来ないのがこのイベントの特徴でもあります。参加者のうち、約二割の人がリタイアするほど、三十六キロメートルの壁は高いのです。周の後半戦、ちょうどハーフマラソンを終えたあたりから、己の心身の闘いが参加者を襲います。その苦しさを乗り越えたあとの達成感はずいぶん参加して味わって欲しいと思えますが、「今まで感じ得ない苦勞を乗り越えたことでこれからなんでもできそうな自信がついた!」と言ってくださる方もいらっしゃいます。

三つ目は、鹿児島島の象徴「桜島」を制覇したという称号です。誰も何かが頑張った後には、金メダルが欲しくなる気がします。

本イベントでは、完歩証を発行していますが、この金メダルには達成への証だけでなく、他にも同時に何かを得られているような気がします。鹿児島人としては、シンボル桜島を歩ききったという事は、なにかドラクエの勇者の装備を獲得したような感覚が。また観光で来られた方には、言い過ぎかも知れませんが(笑)、鹿児島あの「桜島」を手の中に収め高揚感が、この金メダルにはある気がしてなりません。

このように、桜島の万有引力が多くの人を惹きつけているからこそ、こんなにも良いイベントになったのだと、今回初めて運営に関わりましたが、感じることができました。本イベントを運営するにあたって、桜島の地域の団結力の強さや地域を想う人の優しさを改めて感じることができて、私自身も桜島をもっと好きになりました。これからも地域の皆様に感謝しながら、桜島になにかを残していけるような活動のお手伝いをさせていただきます。と思っています。

ご協力いただいた関係各所の皆様に御礼申し上げます。

鹿児島市桜島支所 / 東桜島支所 / 桜島駐在所 / 桜島西・東分遣隊 / 高齢者福祉センター桜島 / 高齢者福祉センター東桜島 / 青色防犯パトロール隊 / 改新地域コミュニティ協議会 / 桜洲校区コミュニティ協議会 / 桜峰校区コミュニティ協議会 / 東桜島校区コミュニティ協議会 / 黒神高免地域コミュニティ協議会 / 園山町内会 / 桜洲小学校 / 桜峰小学校 / 東桜島小学校 / 黒神小学校 / 桜島中学校 / 東桜島中学校 / 黒神中学校 / 桜峰小学校おやじの会 / 桜島歩こう会 様 / 桜島火の島太鼓保存会 様 / カツカザンの会 様 / 鹿児島市 観光交流局 観光振興課 / 鹿児島市 観光交流局 観光交流部 スポーツ課 / 鹿児島市 船舶局 / 鹿児島県企画総合政策部地域政策課 / 鹿児島地域振興局 建設部建設総務課 / 国土交通省 九州地方整備局 / 大隅河川国道事務所 様 / 株式会社コパルト技研 様 / 桜島溶岩茶屋 様 / 永井政タオル 様 / 南日本新聞社 様 / 株式会社 鹿児島読売テレビ 様 / 桜島島内外のボランティアの皆様 (※順不同)

【協賛企業】 株式会社 財宝 様 / セイカ食品 株式会社 様 / キンコー醤油 株式会社 様

約300名の参加者が6時間強から10時間ほど掛けて、約36kmの道を一晩かけて歩かれ、ゴールすることができました。ゴール手前では、足を引きずりながら到着される方々も多くいらっしゃいましたが、事故や怪我がなく終えられたのは、皆さまのご協力のおかげです。慣れない点が多く、皆さまにはご迷惑をお掛けする点もあったかと思いますが、今後とも皆さまと共に桜島を盛り上げていくことを目指し、ご協力いただけますと幸いです。あらためまして、この度は本当にありがとうございました。

サクイチナイトウォーク実行委員会
(さくらじま地域おこし協力隊 押川 蓮斗・増留 愛香音)



松原小学校 錦江湾横断遠泳

さくらじま便り 見た景色

八月一日、鹿児島市立松原小学校で恒例となっている、「錦江湾横断遠泳」がさくらじまの小池町内の浜辺をスタート地点に実施されました。「なぜ島外の学校の事を？」と思われた方もいらっしゃるかもしれませんが、実は本行事の際には、休憩や準備の場として、小池町の公民館を貸し出している、という繋がりがあり、紹介させていただくことになりました！

今回参加するのは、小学四〜六年生の計六十一名。本番約三か月前から、同校のプール内で練習が始まり、それまでに、本番を想定した時間で泳ぎ続けることができるように特訓するそうです。

そうして、厳しい練習を頑張ってきた子ども達



うに塗る、日焼け止めも兼ねたクリームとのこと。で、「チンクイよけ」とも呼ばれているそうです。

そうして入水が始まる十一時、代表生徒からの「みんな一緒にがんばりしよう！」の掛け声で、みんな一斉に「おーっ!!」とその場のボルテージがあがり、太鼓の音が!!実は今回、「さくらじまらしい応援で皆さんを送り出そう」と、地域の公民館長さんが尽力され、なんとさくらじまが誇るべき「火の島太鼓」の団が会場に駆けつけました。

火の島太鼓の力強く、華やかな音が響き渡り、子ども達もどんどん、錦江湾の海を進み始めました。あの入水を怖がっていた子ども、先生と一緒にスタート!!「がんばれ!!」と見送る保護者の皆さんの顔は、心配や不安ではなく、この遠泳を通してわが子が成長していくことを楽しみにする、子を想う親の表情が。また、先に進む子ども達が、火の島太鼓の「一行へ、ありがとー!!」と振り返り、送り出すメンバーの皆さんも輝いている様子が印象的でした。

同校からの報告によると、四・二キロの温かさで溢れています。

さいごに、今回の取材を快く受け入れてくださった松原小学校関係者の皆さま、この場をお借りして御礼を申し上げます。



「さくらじま便り」の、お便りコーナー

みなさんからいただいたお便りの一部をご紹介します!



「人口、子供を特に今こそ」桜州小、桜峰小とも児童数が減り、このままいくと休校等の処置がされると危惧されます。

そこで校区で児童数がこれ以上減少しない方策を皆で考えたいと思います。校区公民館、PTA、校区社協等の組織の中で協議する場を急いでもっと取り組んだらどうでしょうか。また、広く校区住民の意見を何らかの方法で、くみ取りあげる方法も、その一つの方策と思います。「今」やらないと手遅れになると思っています。ご検討を期待します。

島民 村山さん

【編集部】ご意見ありがとうございます。地域の方のご協力をお願いして、一致団結で取り組みたい課題です。今後、行政と地域が共に考えていかなければならない問題でもありますので、地域のお声など、またいただけると大変助かります。

クロスワードパズルや、間違い探しのようなクイズがあると楽しいです。色んな人の口コミ、みたいなものもあると参考になります。毎回楽しく読んでいます。頑張ってください。

スーチンさん

【編集部】毎回ご覧いただき、ありがとうございます。今回は子育てネタの漫画を掲載してみました。クイズのネタやクイズに詳しい島民の方や、島外からいつも応援してください。教えてください!

地元ネタを丁寧に拾っている。椿チャンボン知らなかつたです。行ってみたいと思います。

桜島愛を感じます。もっともつと桜島のよさを発信してください。

匿名希望さん

【編集部】アンケートでのご投稿ありがとうございます。もつと桜島のことを発信していこうと思っております!地元ネタ、ぜひまたご投稿していただくと嬉しいです!LINEからどうぞ☺

ゆるゆるマンガ

イラスト/山下ゆりな



「水が好きすぎて毎朝ビショビショでホースで水遊びをする次男のおかげで雑草もよく育ちます。」

募集

「漫画にしてほしい桜島のエピソード」、「桜島の日常イラスト」を募集します!公式ライン、またはポストにご投函ください!形式は問いません。ぜひご応募ください!

さくらじま便りとは

本誌は、桜島に住みながら、ここで見つける日常の素晴らしいことや面白さを移住者視点で発信・発信することで、島内外の皆さんと繋がりたいという想いから始まったものです。月一回、回覧板で島内の皆さんに本誌を見ていただく機会を作らせていただいています。今後も地域の皆さんと繋がらせていただきます。桜島の良さを多くの方に伝えていきます!

編集後記

まずじめ/島内の至る所で椿の実を目にします。あまりにも鮮やかな真紅の色合いに美味しそう、という見とれていきます。やました/二歳になった次男が本気で怒るとき、震えながら大きな声を出すのですがかわいくて笑ってしまいそうになります。

※公式ラインやポストにて送ってくださるメッセージ等は、編集部のみが届きますので、共有されることはありません。お気軽にご投稿ください。(公式ラインORコードは表紙にご載せています。)

お知らせ

アーティスト・イン・レジデンス

古里地区

この島に暮らすことで
生み出される作品とメッセージ



アーティスト・イン・レジデンス

Artist In Residence とは?

アーティスト(作家・芸術家・創造・創作、表現すること)で作品を生み出す人が、一定期間ある土地に滞在しながら、日頃とは異なる文化や風土、環境に触れ、作品を創り出したり、リサーチ(調査)をしたりすることで活動へのヒントをもらう機会を得る取り組み。また、その滞在制作を支援すること。
作家にとっては、文化の違いや、そこでの生活や交流から刺激を受け、新たな発想や作品作りへの原動力を得ることが出来る。
また、招聘地域にとっては、制作過程で作家との交流や、作品を通じて地域について再発見することができる。



十一月から年内にかけて、とある作家が桜島に滞在し、作品作りを行います。今回桜島に来てくるとは、写真や映像で作品をつくる菊地智子さん。短期間ではあります。古里地区に滞在して、島内の皆さんやその生活に触れながら、さらに桜島の自然や風習などについて調べていくことで、作品を形にしていきたいです。
このアーティスト・イン・レジデンスは、その地の人々と交流しながら、地域の事を知り、そしてさらなる未来や社会へつながるものが生まれていることが、この取り組みの特徴です。
「まだ目を向けられていないもの、気づいていないが実は残すべきもの、それらが形を変えて生まれることを期待するとともに、桜島の皆さんにも是非協力をお願いしたい」と取り組みの中心となつて動かれている島内在住の米蔵さんは、この地域への想いと共に語ってくれました。

今回桜島に来て下さる
アーティストさん

写真・映像作家

菊地 智子 さん



主に写真・映像で、性別や生、国境など現代社会の様々な「境界」をテーマに人の心の揺れ、矛盾の間に生み出される衝突により被写体の内外で生まれるエネルギーを視覚化しています。

- ・二〇二二年「rand」で第三八回木村伊兵衛写真賞受賞(イタリアで写真集を出版)
- ・二〇一五年「The River」で第一回フジテレビジャパニアワードを受賞
- ・森美術館、東京都写真美術館、川崎市民ミュージアムに作品が所蔵されています。

check it up!

ご協力いただける方を募集します

菊地さんから、
桜島の皆さんへの
メッセージ

桜島の昔のご家庭の様子がお写真や記録などをたくさん持っていらっしゃる方、お話を聞かせて頂ける方がいらっしゃれば嬉しいです。また、過疎化がどのように進んできたのかプロセスを知ればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



桜島のアーティスト・イン・レジデンス Art Meetsふるさと (古里地域) / 問い合わせ・連絡先: 米蔵雄大 080-6955-1688